

Yumeken

春

2025 Vol.701

◆特集○話題の焦点

「2025 大阪・関西万博」がいよいよ開催
滋賀の取り組みと見どころを紹介

◆夢インタビュー

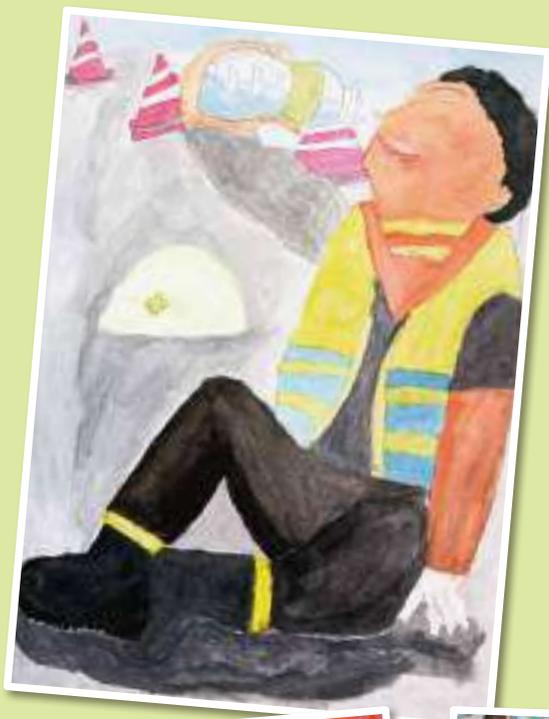
循環型の農業で守り育てる故郷の里山
より多くの人に間近に感じてもらう機会を

◆行ってみよう

『シンビオシスファーム by ヤンマー』

◆おじゃまします

株式会社市原建機



「2025 大阪・関西万博」がいよいよ開催 滋賀の取り組みと見どころを紹介

本年4月13日(日)から10月13日(月)まで、大阪・夢洲を会場に「2025年 日本国際博覧会(略称 大阪・関西万博)」が開催されます。滋賀県では関西パビリオン内の滋賀県ブースをはじめ、イベントなどを手掛けており、滋賀県の建設業からもさまざまな参加を企画しています。その見どころをご紹介します。



会場全景(右)とベストプラクティスエリア(左)のイメージ(提供:2025年日本国際博覧会協会)

「いのち」をテーマに 未来への希望を 世界に示す万博の開催

大阪・関西を舞台にした万博がいよいよ始まります。メインテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。環境問題や紛争、経済危機や災害など厳しい世界情勢が続くなか、いのちをテーマに掲げる万博として、世界が一つの場に集う機会として期待が集まっています。

万博の開催を契機として、世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや創造を促進すること、そして世界的な危機を乗り越えて一人ひとりのいのちを守り、いのちの在り方や生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示す万博となることをめざしています。

160を超える国や地域、国際機関が最新の技術や独自の文化を紹介する「海外パビリオン」をはじめ、各界の最前線で活躍する8人のプロデューサーが主導する「シグネチャーパビリオン」、日本や女性、ヘルスケア、関西をテーマにした国内パビリオンのほか、民間パビリオンなど、個性とメッセージ性にあふれた建築が会場内に並びます。

万博を舞台に 滋賀の魅力を発信

地元関西としては、関西広域連合が「関西パビリオン」を企画・運営し、滋賀県ではその一区画に「滋賀県ブース」を出展。さらに会期前から会期中にかけて、会場内外でさまざまなイベントを展開します。

「滋賀の魅力を発信するだけでなく、これをゲートウェイとして、県内へさまざまな人、ものを誘致していきたい」と話してくる



滋賀県ブースのエントランス イメージ



関西パビリオン イメージ(提供:関西広域連合)

湖国 街かど ウォッチング

新しい施設や街の話題をレポートするコーナーです。

グリーンパーク山東 『ビートルランド・米原』(米原市)



周囲にはアウトドア施設が充実



グリーンパーク山東内に昨年夏オープン

伊吹山麓の自然豊かな地に広がるグリーンパーク山東は米原市にある総合レジャー施設。そこに昨年7月、新しくオープンした「ビートルランド・米原」は世界中の珍しいカブトムシやクワガタなどの甲虫を一堂に集め、実際に触れられるエリアも設けていることから、子どもたちの間で人気を呼んでいます。

雨の日や陽ざしの強い夏でも思い切り遊べる冷暖房完備の全天候型の屋内施設となっており、開館期間は4月19日(土)から11月下旬まで。甲虫に触ることができ「ふれあいエリア」では、テント内に約50匹のカブトムシが日替わりで放し飼いにされています。

展示スペースでは「触れ合い用虫かご」と「観賞用虫かご」の2種類が用意され、世界最大の甲虫ヘラクレスオオカブトやアジア最大のカブトムシ・コーカサスオオカブト、長い大アゴと強力な攻撃力が魅力のギラファノコギリクワガタなど大人気の甲虫を展示(時期によって変更あり)。豆知識



実際に甲虫たちと触れ合うことができる



館内では世界中の珍しいカブトムシ・クワガタを展示

やクイズなど、学べるエリアもあります。名譽館長を務めるのは元野球選手の山本昌氏。幼いころから現役選手として活躍した4代目までカブトムシやクワガタをずっと飼育していたという甲虫ファンで、オープンに際して「この魅力は家族でコミュニケーションを取りながら楽しめる。大人は甲虫との触れあいでの心を思い出し、子どもは甲虫を知って触れあうことで大人への一歩」とコメントを寄せています。

施設では甲虫を購入することもでき、家での飼育に挑戦する際にはアドバイスマももらえます。また、周辺にはキャンプ場やコテージなどの宿泊施設や露天風呂

のある美肌の湯、自然を利用したフィールドアスレチックや全長100mもの巨大スライダー、遊具や水遊びが楽しめる小川、テニスコートなどアクティビティも充実。春の桜や6月のホタル、星空の美しさも折り紙付きです。休日や夏休みの計画に加えてみてはいかがでしょうか。



子どもの好奇心を刺激し、親子のコミュニケーションにも

ビートルランド・米原
●滋賀県米原市池下80番地1(グリーンパーク山東内)
●9:00~17:00(最終受付16:00)
※開館は4月19日(土)~11月下旬
●入場料/600円 3歳以下無料
※小学3年生以下は保護者同伴で入場
●0749-55-3751(グリーンパーク山東)

CONTENTS

湖国街かどウォッチング……………	2
『ビートルランド・米原』(米原市) 特集・話題の焦点……………	3
「2025 大阪・関西万博」がいよいよ開催 滋賀の取り組みと見どころを紹介	6
行ってみよう……………	6
「シンピオスファーム by ヤママー」 おじやまします……………	8
株式会社市原建機 絵画コンクール入賞作品……………	10
夢インタビュー……………	13
循環型の農業で守り育てる 故郷の里山 より多くの人に身近に 感じてもらう機会を 水口淳さん 夢けんひるは……………	14
こと・もの・滋賀……………	16
たみごさんちの発酵キッチン 『発酵食品の健康ランチ』 「仕事の達人・遊びの達人」…………… ホッケーの魅力を伝え、普及へ 子どもたちとともに目指す頂点 森海斗さん クイズ……………	17
近江つまいもの紀行……………	18
読者の声 取材ごぼれ話……………	19
編集後記……………	19
表紙写真 夢けんプラザ絵画コンクール 最優秀賞・優秀賞受賞作品 10・12ページに掲載	19

栗東市

農業を通して「美味しく遊ぶ」
収穫体験のあとはその場でクッキング！
『シンビオシスファーム by ヤンマー』

果物や野菜などを摘み取り、その場で味わう「収穫体験」は、自然の恵みとフレッシュなおいしさが味わえることで人気のレジャーです。そんな採れたての味をその場で自ら調理し、ゆっくりとお茶の時間を楽しみながら農業や琵琶湖について学べるスポットがオープンし、人気を集めています。

栗東に誕生、体験型観光農園

JR栗東駅から約10分。県道12号栗東信楽線を金勝方面に向かって車を走らせると、不思議な多面体のガラスハウスが2棟並んでいるのを存じでしょうか？

ここはヤンマーホールディングスのグループ会社・ヤンマーシンビオシス株式会社の施設。長らく自社農場の温室として運営されてきましたが、「これだけ目を引くシンボリックな建物なのだから、広くみなさんに利用してもらえよう！にできないか」と、約2年かけて体験と学びを提供できる施設にリニューアル。2024年1月に体験型観光農園「SYMBIOSIS FARM by YANMAR(シンビオシスファーム バイ ヤンマー)」としてオープンしました。



ガラスハウス内にあるカフェエリアは琵琶湖のヨシなどで造られている

不思議なガラスハウスのなには…？

ガラスハウスに一歩足を踏み入れて驚くのは、天井まで届くようなヨシ葺きの建屋がなかに建てられていること。デザイン監修は、環境と調和した建



釘を使わず組み上げられた建屋

物を数多く手掛ける建築家・芹澤竜一氏が務めていて、屋根に使われているのは琵琶湖のヨシ。竹などは職員総出で施設の裏山から刈り出したとこのことで、地元の自然素材が積極的に活用されています。

12月から5月はいちご、7月から9月はミニトマト、そして10種類以上のフレッシュハーブや食べられる花、エディブルフラワー、などの収穫体験ができます。さらにこの最大の特徴は摘み取りだけでなく、採れたてをその場で調理して味わえるという点。ヨシ葺きの建屋は癒したっぷりのカフェスペースになっており、ここでいちごを使ったスイーツや、トマトのピザなどのクッキング体験ができます。

カフェにはゆるやかに区切られたいくつかのプライベート空間があり、作ったスイーツやピザをお茶とともにゆっくり味わえるとあって、親子連れにおすすめです。



収穫したものを使い、その場でクッキング体験

12～5月はいちご狩り、7～9月はミニトマト狩り

プライベート空間でゆっくり
学びの時間とカフェタイムを

体験は完全予約制の2時間のコースで、1組5人まで（追加は最大3人）のグループでの利用となります。ヤンマーならではの農業のノウハウを生かし、農業用ハウスでの通年栽培が行われており、天候を気にせず遊べるのもうれしいところ。しかも、摘み取りは一棵ごとにグループでの貸し切り制で、収穫したものは、その場で食べ切りだけではなく、いちごなら1組2キロ相当、ミニトマトなら時間内にすぎなだけ摘んで、料理に使って残ったものは持ち帰ることもできます。



体験のあとはいちごクイズ。いくつか答えられるかな



通年楽しめるフレッシュハーブ摘み

けるタルト生地などが用意されていて、トマトやいちごを使った自分だけのデザートアレンジができます。また、いちごの季節には「あきひめ」と滋賀県のオリジナルブランド「みおしずく」の2種を栽培。カフェスペースはフリードリンク制で、地元の名店が焙煎したコーヒーや県産茶葉を使ったお茶、ジュースなど味にもこだわったドリンクが充実しています。また、キッズエリア「HANASAKA RUM」には、釘や金具を使わない三方格子の展示台が据えられ、環境や自然にまつわる絵本が並びます。中央には水耕栽培と水産養殖を掛け合わせた「アクアポニックス」があり、ニゴロブナやホンモロコなどの湖魚を観察することもできます。

同社はヤンマーグループのなかでも障害者雇用を推進する役割を担っていて、農業と福祉の連携はもちろん、地域、自然、食育などに関わる活動を今後展開していく予定とか。まさに「シンビオシス(共生)」の名にふさわしい施設で「美味しく遊ぶ！」を体験してみませんか。



環境の循環が学べるアクアポニックス



ミニトマト狩りでは4種の焼き立てピザを味わえる



摘み立ていちごを使って大福やタルトに



ひときわ目を引くガラスハウスの外観

SYMBIOSIS FARM by YANMAR

- 栗東市上砥山218
- TEL/077-596-3065
- 完全予約制(ネット予約のみ)
- 定休日/月・火曜(祝日を除く)
- アクセス/栗東I.C.より車で約10分
- JR栗東駅・東口より、帝産湖南交通(コミュニティ金勝行き)中村下車、徒歩約15分



ネット予約はこちら▶

ミニトマト狩り 7～9月

- 料金/1組(5名様まで) 22,000円(税込)
- ※追加は最大3名様まで、1名につきプラス2,200円(税込)
- ミニトマト狩り・ドリンクのみ。ピザ生地の追加2,200円(税込)
- ／3歳未満は無料。人数に含まず
- 利用時間/1部10:00～/2部13:30～
- 内容/6色ミニトマト狩り体験・オリジナルピザ4種&スイーツ(いちご&トマト)作り・フレッシュハーブ摘み・滋賀のこだわりフリードリンク・キッズエリア利用・プライベート空間での休憩と食や農業の学び
- ※トマトの育成状況により休園する場合あり

いちご狩り 12～5月

- 料金/1組(5名様まで) 22,000円(税込)
- ※追加は最大3名様まで、1名につきプラス3,300円(税込)
- ／3歳未満は無料。人数に含まず
- 利用時間/＜土日祝＞1部9:00～/2部12:30～/3部15:00～
- ＜平日＞1部9:30～/2部13:00～
- 内容/いちご狩り体験(1組2kg相当)・いちごスイーツ作り・フレッシュハーブ摘み・滋賀のこだわりフリードリンク・キッズエリア利用・プライベート空間での休憩と食や農業の学び
- ※いちごの育成状況により休園する場合あり

いち早いICT施工の導入で省力化へ 建設業のイメージアップから人材の育成を

株式会社市原建機

甲賀市水口町松尾1013-153

代表取締役 市原敏



県道145号片岡栗東線補助都市計画街路整備工事(完成後)



バックホー運転席の3Dマシンコントロール機



地元小学校で行った重機の見学・体験乗車



大きな重機を前に子どもたちは興味津々



社内外で好評のオリジナルTシャツ

ICT測量の内製化で コストダウンと受注増へ

1984年に甲賀市で創業した株式会社市原建機。建設機械関連の企業に勤めていた先代が重機の修理・メンテナンス事業を主にして個人で独立したのち、土木工事等を手掛けるようになり、1990年に会社を設立。現社長の市原敏氏は測量会社を経て1997年に家業である同社に入社し、平成28年に父から事業を引き継ぎました。

滋賀県を地盤として公共事業を中心に土木工事、土砂運搬、重機運搬などを行っており、県内でもいち早くICT（情報通信技術）を活用した施工を導入してきたことが大きな特徴の一つです。

ICTに着手したのは約10年前。周囲にもまだ参考となる例があまりなかった時期のことで、講習を受講したり、取り扱業者者に指導を乞うほかにも、県外の企業を見学したり、ネット動画で独学するなどして、実際の施工に取り入れるまでには試行錯誤

も多かったと振り返ります。投資金額も大きく、社内でも不安視する声が上がるなか、それでも導入に踏み切ったのは、これから先の業界の変化と人材不足を見越してのことでした。従来は測量で丁張りをするために2〜3人で現場へ出て、さらにそれを書面や図面に起こすために残業するのが当たり前でしたが、いまは測量も一人で済み、情報共有もタブレット一つでできます。

また、測量はICTを使う専門業者に委託することもできますが、発注から納品までに1週間程度を要します。ICT



国道477号補助道路修繕工事



3Dマシンガイダンス機

社内外から評判も良く、社長考案の「地域に笑顔を創る」という標語とともに現場の看板に用い、対外的なPRにも努めているといいます。

「高齢化が進む建設業界ですが、そもそも60〜70歳の経営者のなかには、我が子に継がせたくない、という人も多いのですから後継者不足になるのは当然です。高校生の体験授業を受け入れる際には、先生から「ちょっとヤンチャな奴らを行かせますのでシロ」いてやってください」とも言われる。このイメージをなんとか払拭しなければ」。

まずは小さな子どもたちや親御さんから印象を変えていこうと、地元小学校で出張授業を行ったり、中学生を対象とした現場見学会の開催にも力を入れてきました。

すると、最新の機器やドローン、空調の効いた重機の運転席、そして、必要とされる高い技術と知識に「カッコいい」「面白そう」と子どもたちから感想が寄せられ、少しずつですが手ごたえも感じられるようになってきたとか。自社だけでなく、建設業協会や地元支部との連携も深めつつ、PR活動にも積極的に取り組んでいます。

「建設工事はまちや地球を治療するお医者さんであり、災害時にも欠かせないこと。そして地図に載り、50年先、100年先まで残る仕事であるという魅力を伝えていきたい」と話し、理解の裾野を広げるところから未来の担い手を育てたいと語ってくれました。



市原敏代表取締役



坂王井川河川改良工事



国道307号補助道路整備工事



滋賀県が推進する「淡海エコフォスター」活動にも参加



若いアイデアが光る重機をあしらったロゴ



現場に掲げたロゴとスローガン

今年は昨年を上回る応募があり、多様な魅力的な作品が多かったように思います。第1部では、未来社会や想像上の機械をテーマに、自由な発想とユーモアが感じられる作品が多く、観る人を惹きつける創造性に満ちていました。第2部では大胆な筆遣いや配色、絵の具以外の素材を用いた表現が目を引き、それぞれの個性がモチーフの描き込みにも表れていました。第3部では身近な機械や風景を改めて観察する中で構図や光の表現に工夫を凝らした作品が多く見受けられました。これらの作品は、絵画表現が単なる技術にとどまらず、社会や未来への視座を持つメディアとしても機能することを示しています。また、このコンクールを通して、子どもたちが地域の新たな魅力を発見し、ユニークなアイデアを形にしなから、社会と人とのつながりについて考えるきっかけとなることを願っています。

第12回 『夢けんプラザ絵画コンクール』



次世代を担う子どもたちに向けて、建設産業の魅力を発信する目的でスタートした滋賀県建設業協会の「夢けんプラザ絵画コンクール」。安全で快適な暮らしを送るためのインフラ整備や、まちの豊かな環境の整備など、多くの役割を建設産業が担っていることや、その役割の大切さに関心を持ってもらい、子どもたちの豊かな感性や観察力、創造力を育むことを目的に開催される、県内の小中学生を対象とした絵画コンクールです。



テーマ

第1部 小学校低学年の児童

- ①「工事ではたらく人」
工事をしている未来の自分
工事現場でがんばって働く人の様子
思わず働きたくなるような、未来の建設現場
あつたらしいなと思う未来の建設機械
迫力ある建設機械
- ②「工事ではたらく機械」
あつたらしいなと思う未来の建設機械
迫力ある建設機械
- ③「滋賀の建設物」
滋賀の建物や町並み
便利な生活を支え、災害から人々を守っている道路、橋、ダム



評 工場で働く機械を猫の妖怪に見立て、工事が順調に進むように想いを込めた作品です。画面に大きく描かれた機械の姿や鮮やかな色の使い方が見て楽しく、印象に残る作品です。そのようなユニークな機械の描写だけでなく、操縦している人も丁寧に描き込まれ、「さあ、今から工事をがんばるぞ!」という意気込みも伝わってくるようです。



「ぜぜじょうふっかつ」
西四辻 理玖
評 もし膳所城が再建したらたくさんの人で賑わうかな?そんな想いをもって描かれた作品。城の周りで楽しむ様子が細部まで生き生きと描かれています。



「わたしの家をつくる大工さん」
松本 杏綺
評 自宅の棟上げの日の思い出を描いた作品です。木目まで描かれた柱によって家が形作られていく様子や、大工さんや機械が頑張っている様子がよく伝わってきます。



「びわ湖の中でもがんばるさぎょう員と重き」
宮本 悠月
評 琵琶湖の中に建設中の「BIWAKO CITY」を想像して描いた作品。建設物と魚が共存する新しい街という想像が楽しく、また、セロファンや厚く塗った絵の具など素材を工夫しながら表現できています。

第2部 小学校高学年の児童



「休憩」
澤島 輝
評 工事現場で働く人の休憩の様子を描いた作品です。人物の全身を画面いっぱいに描いた大胆な構図で、休憩時間のリラックスした様子や、水分を補給する美味しそうでリフレッシュした表情がよく捉えられています。



「シヨベルカー」
濱口 笑良
優秀賞



「水道工事で働く人」
勝矢 壮亮
評 自宅の水道工事の思い出をもとに描かれた作品です。働く人が持っている様々な工具はともにかラフルに表現されており、まるで魔法をかける道具のようなわくわく感やドキドキ感が伝わってきます。



「みんなで笑顔を つくっちゃおう」
井上 優登
評 工事現場で活躍する機械ですが、遊具のように遊んでみたい!そんな自由な発想が込められている作品です。鮮やかな色彩が目を楽しませますが、線や点を自然物に見立てる造形力も感じます。

入選



「世界いさんになれ!」
にしいろのひこねじょう!」
村中 紬希



「おおきなドリルシヨベルカー」
大矢 暖人



「町をなおすシヨベルカー」
谷口 湊生



「白髭神社とキレイな夕日」
山本 麻陽



「こうじけんばではたらくみらいのわたし」
西尾 美月

入選



「夢のリサイクル工場」
早川 瑞姫



「彦根市の新しい建物」
寺井 廉治



「家族と行った八幡堀」
岡 凜



「あこがれの湖東スタジアム」
衣川 嗣晟



「真夏の瀬田の唐橋」
石田 一陽



「浮御堂」
坂井 伶華

「みちをつくるシヨベルカー」
赤尾 恒政



最優秀賞

「私たちの街を造る!!
シヨベルカー」
朝山 澤那



優秀賞



「夕日に染まった比叡山延暦寺根本中堂」
上田 真太郎

夏の夕暮れと秋の始まりを表現したという作品です。夕暮れの表現にはオレンジ色だけでなく黄色や青色も使用し、時間の移り変わりを工夫して表現できています。また、夏と秋の間を、自然の色彩によって表現する工夫も見られます。



「あ〜疲れた!」
田中 彩恵

まさにタイトルの言葉が聞こえてきそうな作品です。しかし、働く人物はとても達成感のある表情をしています。人物のアウトラインを強調することで奥行きある空間を表現できています。

入選



「工事でがんばる機械」
北村 心晴



「今日も炎天下で」
福元 匠



「憧れの近江神宮」
秋田 琉花



「夕方の新八日市駅」
藤澤 悠月



「石山寺」
鈴村 賢生



「たぬきのうどん屋」
高橋 凛

夢 Interview

循環型の農業で守り育てる故郷の里山 より多くの人に間近に感じてもらう機会を

びわ湖の水源地として知られる高島市マキノで、農業や化学肥料を使わない農業に取り組み水口淳さん。農産物や加工品の生産、カフェも手掛け、主催するマルシェには多くの人が集います。水口さんがめざす里山を舞台にした循環型の農業についてお話を聞きました。



生産する農産物と、酒や味噌などの加工品



自然豊かなマキノの地で多くの農作物を手掛ける

●農業を始められたきっかけを教えてください。
もとはアパレル会社を経営しており、洋服の輸入販売を手掛けていました。2008年のリーマンショックで売上が低迷し、その後の東日本大震災で物流がストップしたのを機に、「自分でものをつくるメーカーにならなければ」と感じました。そこで着目したのが、生まれ育ったマキノで農業をすること。食べるものなら流行や景気に左右されず売れますし、田舎の土地なら元手もあまり掛かりません。農業の経験はありませんでしたが、農家の仕事は見て育っていることもあり、やり方や戦略によってはチャンスがあると考えました。
●当初は「苦労もあったのでは?」
後継者不足で農作放棄地はたくさんあるのですが、伝手もない素人に農地を貸す人がなかなかないのは当たり前です。やっと借りた土地も長年の放置で荒れていました。若いころに建設関連の仕事をした経験があり重機も扱いましたが、石や木の根を取り除くのは根気のある作業です。ただ、妻と二人で一生懸命に開墾していると、それを見た人が「うちの畑も使っていいよ」と声をかけてくださるようになり、耕作地も増えていきました。作物についてもまったくの素人ですから技術では経験のある農家にはかきません。そこで付加価値があるものを、と考えて着手したのが農業や化学肥料を使わない有機農業です。虫の付きにくいリーフレタスやマキノの特



原木栽培のしいたけ

産であるしいたけの原木栽培から始めていきました。
●農場経営で大切にされていることは?
農業関係者ともつながりが無かったので、まずは道の駅などに作物を持ち込みました。地方の直売所にはレストランのシェフも足を運ぶので、できるだけ特色のある野菜やたくさんの方の品種を作り、農園の認知度があるよう工夫しました。直接連絡をいただけるようになると、今度はシェフの要望に応える作付けなども行い、優良な農産物産業者を認証するJGAPも取得。現在では東京の飲食店や仲卸などとも直接取引しています。
●優良なビジネス商材として農業を始めましたが、儲かるからといって作りたくないものを作り続けるのは辛いし、お客様に喜んでいただけるのは、やはり楽しいと思いつながら作ったものだと感じます。だからこそ、農業を長く続けていけるようにいろいろな作物や事業にチャレンジし続けたいと思っています。
●新たな挑戦についても詳しくお聞かせください。
育てた野菜や米を食べてもらうカフェ「T-SUMUGU」のほか、農業研修や里山体験の際に泊まっていただけ



主催する「たかしま里山里湖マルシェ」 ゲストハウスのある農舎は元は小学校の講堂

●水口さんがめざす循環型農業とは?
農業を主体としている以上、地域の環境やそれらを守ってきた人々の暮らしを大切にすることは大きな使命です。森を守るために木を植え、手入れのなかで出た間伐材でしいたけを育て、使い終わった原木やカフェの食品くず、馬糞などを堆肥にしてまた野菜や木を育てる。そういった循環型の農業に取り組んできました。里山の恩恵や農業を身近に感じてもらうために「たかしま里山里湖マルシェ」も開催し、仲間を集めて「森の実験室」も主宰しています。
実際にマキノを訪れ、里山に触れて知る体験の機会をより多く創り出すことで、農業の裾野を広げ、人と里山をつないでいければと思っています。



みなくちファーム
代表
水口 淳さん

高島市生まれ。2014年に就農し、蔵舎やカフェ、農業研修向けのゲストハウスなどを含めた循環型の複合農園「里山オーガニックビレッジ」を運営。

みなくちファーム
●高島市マキノ町蛭口1386-8 ●0740-20-1271
●ホームページ <https://minakuchi-farm.com/>
●インスタグラム https://www.instagram.com/minakuchi_farm/

絵画コンクールの審査会・表彰状授与式を実施



11月6日(水)、第12回「夢けんプラザ絵画コンクール」の審査会がコラボしが21にて成安造形大学の協力のもと開催されました。

「工事ではたらく人」、「工事ではたらく機械」、「滋賀の建設物」のテーマから県内48の小中学校、児童クラブより578点の応募をいただきました。

多様で魅力的な作品が多い中、第1部(小学校1～3年生)、第2部(小学校4～6年生)、第3部(中学生)より最優秀賞、優秀賞、入選の合計30点の入賞作品が決定しました。

また、最優秀賞については下記の日程で受賞者の学校を広報委員長が訪問し、表彰状授与式を行いました。

湖南市立岩根小学校 令和7年1月15日
 草津市立笠縫東小学校 令和7年1月15日
 滋賀大学教育学部附属中学校 令和7年1月22日



夢けんひろば

滋賀県建設業協会の活動についてご紹介するコーナーです。協会広報委員会のフェイスブックもあわせてご覧ください。

「滋賀けんせつみらいフェスタ2024」を開催

滋賀県建設産業魅力アップ実行委員会主催で、建設産業の魅力を発信する「滋賀けんせつみらいフェスタ2024」が令和6年10月12日(土)に希望が丘文化公園にて開催されました。

出展ブースは官公庁及び建設産業団体連合会加盟団体を中心に42ブース。子どもたちに大人気の建設重機試乗体験やものづくり体験など多くのお客様に楽しんでいただきました。

また、フェスタ開催10周年特別企画として、遠隔操作重機試乗体験や押し重機総選挙も実施。押し重機総選挙では除雪車がめでたく第一位に選ばれました。

ステージでは、地元の野洲中学校吹奏楽部の演奏、びわ湖大津観光PR大使の木下光希さんによるジャグリングパフォーマンス、滋賀県の若手・女性技術者表彰、建設産業私たちの主張作文コンクール入賞表彰、夢けんせつフォトコンテスト入賞表彰、滋賀県職員で結成されたバンド「SHAKITZ」による演奏をお客様に観覧いただきました。

来場者数は過去最高の約5,000名と大盛況の中、幕を閉じました。たくさんのご来場、ありがとうございました。



アセットマネジメント推進委員会が県外視察を実施



11月28日(木)、滋賀県内における橋梁メンテナンス技術者の養成促進に向けた研究のため、橋梁維持管理技術者の養成を行っている名古屋大学橋梁長寿命化推進室/ニューブリッジを訪問し、同施設の概要や開催されている研修等について説明を受けました。

滋賀県建設業協会アセットマネジメント推進委員会から9名(委員5名、事務局4名)が出席いたしました。



建設COCO倶楽部による出前授業を実施

12月16日(月)、滋賀県立長浜農業高等学校2年生37名を対象に出前授業、現場見学会を開催しました。

はじめに建設業協会女性活躍推進グループ「建設COCO倶楽部」による出前授業を実施。建設業の紹介、業界の現状などの講話、グループディスカッションを行いました。

その後、長浜市の西谷補助通常砂防工事の工事現場(田中シビルテック(株))、姉川補助広域河川改修工事の工事現場(株)明豊建設)を見学。測量や重機試乗、ドローンシミュレータなどを体験いただきました。



第59回滋賀県建設界野球大会

今大会は8月31日に大会1日目を開催する予定でしたが台風10号の影響で延期され、大会日程も大幅な変更となりました。大会は、9月7日、9月23日、9月28日、10月26日の4日間にわたり皇子山総合運動公園等で開催されました。

延期された関係で大会の開会式は中止されましたが、9月に1回戦から準々決勝が開催され、10月に開催される大会最終日の準決勝に進出する4チームが決まりました。

最終日は10月26日に皇子山球場において準決勝と決勝戦が行われ、準決勝では、昭建×きんでん滋賀支店、中村組×吉野組の2試合が行われました。

その結果、きんでん滋賀支店と中村組の2チームが決勝戦に進出しました。

決勝戦は、6対5で、きんでん滋賀支店が中村組に勝ち5度目の優勝を飾りました。



優勝 きんでん滋賀支店
 準優勝 中村組
 3位 昭建
 3位 吉野組

最優秀選手賞 岡本 有矢 選手(きんでん滋賀支店)
 敢闘選手賞 川原園 稜 選手(中村組)



たみこさんちの発酵キッチン 『発酵食品の健康ランチ』



店主の細居たみ子さん



定番のテイクアウト用お弁当

店舗情報
〒523-0001滋賀県近江八幡市金剛寺町91-3
TEL.090-1891-5446
営業時間 11:00~18:00
定休日 日曜・木曜・不定休あり

カラダとココロにやさしいごはん

JR近江八幡駅から車で約10分。春は桜、秋はコスモス畑が美しい集落の一角に「たみこさんちの発酵キッチン」があります。その名の通り、店主である細居たみ子さんが自宅を改装したお店で腕を振るい、発酵食品と地元で採れた旬の野菜を楽しませてくれます。キッチンに並ぶのは自家製のピクルスや酵素シロップに漬けた果物たち。発酵玄米や手作り味噌をはじめ、一品ずつ丁寧に作られた料理の数々は、たみこさんがモットーとする「カラダとココロにやさしいごはん」という言葉がまさにぴったりです。

とくに、びわ湖の魚を使ったメニューは滋賀県のプロジェクト「びわ湖魚グルメ」に参加し、パンフレットにも掲載されていて、魚は沖島や近江八幡の漁師さんから直接仕入れられているのだとか。季節や漁獲量によって手に入る魚はさまざまですが、「季節の湖魚入り発酵玄米おにぎり」は数量限定の人気メニュー。定番の日替わりランチやテイクアウトのお弁当も驚くほど品数が豊富です。

たみこさんが発酵食品を自らの手で作るようになったのは50代のころ。会社務めをしながら「定年後は好きな『食』に関わりたい」と考えていたなかで、偶然出会った発酵食品の教室に通うようになり、並行して地域の子ども食堂を手伝い始めました。

定年後には童王町にある暮らしと子育てをテーマとした学びと交



品数豊富な日替わりランチ

お店では、たみこさん以外の人が料理を披露する「間借りキッチン」を実施するほか、さまざまな人が講師となるワークショップも企画。漬物や味噌造り、木工、手芸、ヨガ、包丁研ぎなどジャンルも幅広く、そこで出会った人からまた新たな交流が生まれています。

「みなさんが料理や企画を持ち寄ってくれる。たみこさんの休日『なんていうイベントもあるんですよ』と、うれしそうに笑顔を見せるたみこさん。ご近所

さん。ご近所さんが「料理に使って」と野菜を届けてくれたり、町内会の集まりに店を利用してもらったり、地域との交流も深まっています。

昔ながらの暮らしやおつきあいが失われつつあるなか、「それを伝える場になることで、お世話になったみなさんにお返し、次の世代へ続く良い循環が生まれてくれれば」。そんな思いを味に込めて、たみこさんはキッチンに立ち続けています。



日野菜漬のワークショップ風景



酵素シロップはジュースなどに

【メニュー】	※いずれも税込
◇日替わりランチ	1,200円
◇テイクアウト弁当	900円
◇季節の湖魚入り発酵玄米おにぎり	1つ 330円 (1日20個限定/前日までに要予約)
◇家庭的な湖魚ざんまいランチ	2,750円 (1日5食限定/3日前までに要予約)

【インスタグラム】
https://www.instagram.com/tamikosanchi_hakkoukitchen/

仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

ホッケーの魅力伝え、普及へ 子どもたちとともに目指す頂点

株式会社 森音 常務取締役 森 海斗

スティックを使ってボールを打ち、得点を競うホッケーは、スピード感とゲーム展開の早さが魅力。世界のトップ選手ともなるとシートのボールスピードは時速200kmに達します。

滋賀県では米原市の伊吹が「ホッケーのまち」として知られ、母がここでホッケーをしていたこともあって私を含めた兄弟の三兄弟で幼いころからこの競技に親しんできました。

私が彦根の若葉スポーツ少年団で本格的にホッケーを始めたのは小学一年生から。六年生で初の全国優勝を果たし、伊吹高校へ進学後は主将を務めた三年生のときにインターハイ二位に入賞し、高校ではユース日本代表にも選ばれました。2013年からは社会人チーム「滋賀クラブ」でプレーし、2016

年の岩手国体では滋賀県代表の主将として全国優勝、三年後の茨城国体では監督を任せていただきました。

選手として試合に出る一方で、大学卒業後は家業の傍ら指導も行うようになり、幼いころお世話になった地元スボ少の監督を皮切りに、彦根南中学や聖泉大学男子ホッケー部の外部



10年以上にわたり続けている子どもたちへの指導

コーチを兼任。2016年には中学校滋賀選抜女子、2019年には同男子の監督として全国一位へ導くことができました。

県内にチームが少ないため、仕事の休みを取って遠征することもありますが、周囲のサポートもあり、また練習を効率的に行うことで時間をやりくりしています。思えば幼いころは父や母が家業の合間を縫って送り迎えなどをしてくれていました。おかげで私も競技に専念することができ、妹の花音は東京・パリの二度の五輪に出場して女子フロリーグで活躍中です。

現在私は選手を引退し、指導を中心に活動しています。大きな課題は競技の普及で、地域のスボ少以外にも県内の小学生を対象にした「PROGRESS HOCKEYSchool」を開講しています。また、進学した中学で部活動がないために競技をやめていく子どもたちも多く、今年4月に滋賀県初のクラブチーム「PROGRESS U-15」を設立。学区を越えてホッケーができる環境を整え、若い指導者の育成も進めています。

目標はクラブの女子チームで3年後に全国優勝をすること。ほかにも地元の3つの保育園でホッケー体験を企画するなど、頂上をめざしつつ、裾野を広げることでホッケーを盛り上げていきたいと考えています。



現役時代は滋賀県代表としてもプレー



クイズ

エキスポートズクイズ

に入る文字を組み合わせてできる言葉は？

ヒント 特集「話題の焦点」

- ①エキスポート2025の公式キャラクターの名前は？
→ オ ○ ○ ○ ○ リ ○ ○ ○
- ②滋賀県プールのエンターテインメントの丸いスクリーンは何製？
→ シ ○ ○ ○ ○ キ
- ③世界最大規模の木造建築としてギネスに認定されたのは？
→ オ ○ ○ ○ ○ リ ○ ○ ○
- ④滋賀県内に設置されるベンチの建築構造材は？
→ シ ○ ○ ○ ○ イ
- ⑤参加型企画として実施中の動くアートギャラリーは？
→ シ ○ ○ ○ ○ WEB万博
- ⑥「空飛ぶくるま」などの新しい移動手段のこと。
→ 次世代 ○ ○ ○ ○ ○

答えは

ライトビジョン

『SNSでも話題沸騰』びわ湖をたべるグミ』



インパクトのあるネーミングとパッケージで瞬く間に大人気に

「びわ湖をたべる」は琵琶湖の水止めたるか」。そんなインパクト絶大なワードを商品名に冠したグミキャンディーが話題になっているのを存じでしょうか？

2024年4月の発売以降、県内の道の駅や一部のコンビニ、高速道路のサービスエリアなど取り扱い店舗を増やし、滋賀土産として人気を博しているこのお菓子。青い琵琶湖を模したひと口サイズのグミは、サイダー味で1袋「6湖」入り。パッケージ

ジの裏には琵琶湖の豆知識も記載されています。

開発したのは、昨年創業90周年を迎えた株式会社ジェリフ。長年にわたりゼラチンやコラーゲンの製造・販売を手掛けており、このグミには魚由来の「フィッシュコラーゲンペプチド」が配合されています。

コロナ禍で売上が減少するなか、商品開発プロジェクトを発足させ、手探りで試行錯誤を続けた末に、市場が拡大しつつあったグミに着目。主原料のゼラチン

サイダー味でフィッシュコラーゲンペプチドを配合



地域色を前面に出しながら、手に取りやすいこと、さらにはおいしさとのネーミングにこだわったところ、朝の情報番組で取り上げられたことをきっかけにSNSで話題が沸騰。売上



野洲にある㈱ジェリフ本社

株式会社ジェリフ
●本社/野洲市市三宅1013
●TEL. 077-588-3000



主力商品であるゼラチン製品

VOICE 読者の声

カネイ中川仏壇の記事で、長浜の漆塗がNICUに繋がっていると知り驚きました。

水資源機構の事業でピワイチの湖周道路になっている湖岸堤を保持・管理されているスタッフの苦労話などぜひ企画してください。これからも期待しています。

30回の歴史をもつフォトコンテストも、多くのスペースをとって作品を掲載されている本誌も素晴らしいと思います。

建設業に携わる皆様は世に言う「固い職業人」ですが、「柔らかい趣味」をお持ちの方のON・OFFをもっと聞かせていただきたいです。

フォトコンテストの作品「シンボル公園の夏」。大きな木の下で涼む姿に感心し、視点を変えるとさまざまなものが見えることがわかりました。

「近江うまいもの紀行」は滋賀県がPRできていて良いですね。

気候変動による自然災害の頻発・甚大化に対し、貴会の対策・訓練、自然を守る諸活動に大いに賛同します。私も微力ながらできることを一つでも実践します。

毎年フォトコンテストに応募させてもらっていますが、入賞作品を拝見し、私が落選したことについていつも納得しています。捲土重来、次回もがんばります。

取材のぼれ話



工事中の博覧会会場、におの浜一帯の遠望

特集でもご紹介した「2025大阪・関西万博」がいよいよ開幕します。取材に際し、万博と滋賀県の関わりについて資料を探しているなかで、ふと検索にあがってきたのが「びわこ大博覧会」というワードでした。

昭和43年（1968）9月～11月に大津市におの浜一帯の埋め立て地で行われ、60代以上の方なら覚えておられる方もいらっしゃるでしょう。大津市制70周年・滋賀県政100周年の記念行事として開催され、この2年後に控えていた日本万国博覧会（大阪万博）への序曲と位置づけられていました。

来館、交通科学館、電力電波館などいくつものパビリオンが並び、万博館では大阪万博に先行して、岡本太郎氏が信楽焼の技術を生かして作成した太陽の塔の模型も展示されたそうです。



正面はびわこ館。手前の水路は会場を船で巡る虹の運河



昭和43年開催「びわこ大博覧会」正面ゲート

（写真提供／大津市歴史博物館）

After Word

今年の冬は例年以上に寒い日が多かったように思います。そんな中で、今回はヤンマーのシンビオシスファームさんへ行ってきました。取材させていただいた日は日差しもあり暖かく、もう春の訪れが近いのではないかと感じていましたが、そんなことはなく、その後も雪が降るなど厳しい寒さが続いています。この広報誌が発行される頃には暖かくなっているでしょうね。

さて、シンビオシスファームさんですが、子どもも大人も楽しく遊べているという体験できるという施設で、取材というより個人的に来ることを考えてお話を聞いていました。私はいちごや甘いものが大好きなので、また、いちご狩りのシーズンに家族や友人とで行ってみたいと思います。あと、何よりもびっくりしたのが、ヤンマーさんの Mascot キャラクター「ヤン坊マー坊」の新デザインです。時代の流れを感じ、考えさせられました。



次回はどんなところ取材できるのか楽しみです。今後ともよろしく願います。



前号の答え
700

パズル&クイズ当選者

- 西川 清子さん
- 村内 一夫さん
- 細江 隆一さん
- 植松 正樹さん
- 西村 忠員さん
- 丹治 徳彦さん
- 木村菜津子さん
- 柴田 正治さん
- 端 洋一さん
- 長原 満洋さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
令和7年6月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(一社)滋賀県建設業協会 広報委員会

季刊夢けんせつ春号

◆
2025年(令和7年)4月10日
通巻第701号
発行 一般社団法人滋賀県建設業協会
〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18
TEL.077-522-3232(代)
FAX.077-522-7743
https://www.yumeken.or.jp
企画編集 広報委員会
協力・印刷 宮川印刷株式会社



一般社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp